

令和2年度第1回秋田県立近代美術館協議会（要旨）

日 時	:	令和2年7月22日（水）	13:00～15:30
会 場	:	秋田県立近代美術館	研修室
出席者	:	会 長	横 井 朗 横手市教育委員会教育総務部生涯学習課長
		副会長	佐 藤 克 己 横手市立横手南小学校長
		委 員	池 田 聖 子 色々美術研究所代表
		〃	伊 藤 聖 子 秋田ふるさと村営業部イベント企画広報課長
		〃	小笠原 豊 小笠原樺工房代表
		〃	鎌 田 あかね Little A 代表
		〃	河 田 美智子 大館市女性センター会計年度職員
		〃	長 沢 薫 秋田県書道連盟理事
		〃	吉 野 真 史 日本放送協会秋田放送局長
		〃	渡 辺 歩 秋田魁新報社文化部長
		事務局	糸 田 和 樹 県生涯学習課生涯学習・学芸振興班 学芸主事（兼）社会教育主事
		〃	仲 町 啓 子 近代美術館 特任館長
		〃	亀 沢 覚 〃 館長
		〃	保 泉 充 〃 副館長（兼）学芸班長
		〃	佐々木 賢 一 〃 総務班 副主幹（兼）班長
		〃	北 嶋 幸 生 〃 〃 副主幹
		〃	加 藤 紫 帆 〃 〃 主事
		〃	鈴 木 秀 一 〃 学芸班 副主幹
		〃	木 村 雅 洋 〃 〃 学芸主事
		〃	藤 井 正 輝 〃 〃 〃
		〃	高 橋 輝 樹 〃 〃 〃
		〃	小 林 紀 子 〃 〃 〃
		〃	鈴 木 京 〃 〃 主任（兼）学芸主事

<次 第>

- 1 開 会
- 2 任命書交付
- 3 特任館長あいさつ
- 4 委員・職員紹介
- 5 館内視察
- 6 会長選出
- 7 協議

(1) 令和元年度近代美術館事業の概況について

(2) 令和2年度近代美術館事業の概要について

亀沢館長がパワーポイントを使用して(1)(2)について事業等を説明

(3) (1)・(2)について一括の協議・質疑応答

8 閉 会

<協議概要>

(発言者：●委員 →事務局)

●初めて美術館に来た時にふるさと村から美術館に来る途中や館内で迷い、ようやく展示室にたどりついた。よく見ると案内はあるが、矢印であるとか、誘導する大きなサインがないと、初めて来た方は迷うと思う。

●セカンドスクールの利用を広げていけば、地域と美術館の繋がりがより深まると思う。子供だけでなく、大人のセカンドスクールのようなものがあればいい。自分の趣味を深めたい、あるいは作家としての技術を学んでみたい、社会人にも門戸を開いた、入口としての美術館というのも面白いと思う。

●子育て世代が小さいお子さんを連れて美術館に気軽に来ていただくことで、表現力、色彩感覚が養われ、心豊かな秋田っ子が育まれると思う。

●キッズルームについて、今より内装・おもちゃの木質化を進め、木のおもちゃを題材にして若いお母さんとお子さんに美術館に来てもらうのはどうか。

●キンビ・創作体験プログラムについて、長期の休みに子供たちが楽しめるような企画の教室を開催しているが、学校でもPRできるようにもっと宣伝してはどうか。また、子供たちを対象にした楽しむための教室もいいが、少しレベルを上げた、専門的なことを継続的に学べるような教室があればいい。

●メディアの仕事と美術館の仕事は、大事なことを多くの人にいかに伝えるか、という点で重なる部分がある。近代美術館が、どんと構えて来る人を待ち受けているだけではなく、体験教室や館長講座、出前美術展で地域と繋がろうとしていることに感銘を受けた。一方、その取り組みについてはあまり広く知られていないように思う。

メディアに注目されるために、いつでもいいことを今やるのではなく、今やることに意味があるから今やる、という方法がある。去年の体験プログラムを見ても、去年やっても10年前にやっても良かったかもしれないというものがある。例えば、みんなで素敵なマスクを作ってみようとか、今皆さんが関心のあるようなアイテムを盛り込んで、今この瞬間だからこそ楽しい、見たい、と思われるような企画を考えると、より注目度が上がり、取り上げられやすくなると思う。

●美術館入り口からのアプローチの花壇のように、我々の意見を吸い上げていただき、この美術館を少しでも親しまれるような施設にしようという努力が現れている。先程、収蔵庫を拝見したが、作品が大切に保管されている現状や、作品が増える一方で今後、収蔵庫をどのようにしていくかなどの課題を何かの

機会にメディアで紹介できれば、美術館のあり方を県民と考えるきっかけになると思う。

●事務局からの令和元年度の事業説明で、出前講座が載っていなかったのはなぜか。

→美術館主催の事業の説明だったので、県事業の県庁出前講座は割愛させていただいた。

●出前美術館を呼びたいが、費用はいくらかかるのか。

→規模にもよるが、学校で開催する場合、2トントラック1台で30万円程、2台で40万円から50万円程になる。

●ミュシャ展は、出前できるのか。

→ミュシャ展は、他の方からお借りしている作品なので、ここだけの展覧会になります。6階に展示している当館所蔵のミュシャ作品は条件を整えばお貸しできる。

●ミュージアムショップについて、今は地下1階のエントランスは、ポスター、フライヤーを置いてあるだけになっているが、ミュシャ展を開催しているからそこは使っていないのか。

→春から秋にかけての特別展の開催時期は、展覧会場を1回出てから地下1階に行くと購買意欲がちょっとなくなるので、展覧会場を出てすぐのところに出している。特別展がない冬期間は地下1階に設営している。

●今、ミュシャ展のグッズを扱っている店が冬期間は、地下1階に行くのか。

→その通りである。がいふう舎さんというところをお願いしている。

●ミュージアムショップのグッズについてはすべてお店にお任せで、美術館からオリジナルのグッズ作成について提案することはないのか。

→基本的にはない。特別展に関することはお任せしている。

●ふらっと来て買っていけるような、美術館ならではのグッズがあるといい。発注数や価格もあるだろうけれど、何か魅力的なお土産があると嬉しい。

→当館としても、特別展がない時でも買っていただける独自のグッズがあればいいなと思っているが、業者に発注するには量を作らないといけないので、予算的にあれもこれもというふうにはできない。今、置いている秋田蘭画のクリアファイルについても、他館の秋田蘭画展で作っていただいた物の残りを譲っていただいた経緯がある。少しずつでも、絵葉書あたりから増やしていきたいと思っている。

●現在、コロナ禍の中でミュシャ展を開催されているが、前年と比べてお客さんの入りはどうか。また、特段、館として特に注意していることや、この特別展を実施するにあたって苦労した点、一手間加えた点などがあれば教えていただきたい。

→入館者に関しては、4～5月の1ヶ月の休館と、6月末までの週2日の休業、営業時間短縮の影響で、ミュシャ展が始まる前の時点で昨年の15%程の入りだった。ミュシャ展が始まってからは大分、昨年度と同じくらいになっており、一日の平均が平日約150人、休日300～400人程度である。

→コロナ対策としては、特別なことは行っていない。来館者へのマスク着用をお願い、受付での非接触型体温計を用いた検温、カウンターのアクリルボード設置、展示室の入場制限、カウンター待機列・展示室の間隔表示、スイッチ・ドアノブ類の消毒、貸出用ベビーカー・シニアカー・車椅子・杖の消毒。また、職員側の対策として、出勤前の検温、フェイスガード着用を行っている。お客様の入館時の検温に関しては、全国博物館協会ガイドラインに則って37.5度以上の方にはお引き取りいただくことにしているが、現在のところ、そのような高熱の方は来ていない。こちらもお引き取りいただくことはなかなか申し訳ないので、そういうお客様がいらっしゃらないことを願っている。

●感染症対策について、弊社では先日、専門家に公開スペースを見ていただいた。物をいちいち拭くことはかなり手間がかかるが、人を拭くのは楽。消毒をした人を入れていくという考えにたつと負担は減る。あと、人の流れを一方向にする、鉢合わせになるとリスクが上がると助言を受けた。国や県のガイドラインに準じて、当然感染対策がとられていると思うが、その上で専門家に一度、現場を見ていただくとかかなり対策が強化される。機会があればそういう方法をとってみるのも手かと思う。

●コロナに関して、こういった状況で苦労されたと思うが、全国でも美術館やライブハウスや、芸術に関わる場所はとても苦労していて、営業が成り立たないところもたくさん出てきている。こういった時代だからこそ、今だからこそ、近代美術館で何かできることがあるか、特任館長の考えをお聞かせ願いたい。

→東京は分母が大きくコロナが充満しているから、美術館、博物館は規模を縮小したり予約制にしたりと大変な状況にある。一方、秋田は比較的コロナも安定していて、皆さんも静かに見られて心が休まる場所を求めている。これは偶然だが、今の展覧会がミュシャ展で良かったと思う。これが深刻な社会派の展覧会だったとしたら、こんなにお客様は来てくださらなかったかもしれない。今順調に来ていただけているのは、明るくて心が安まるミュシャの作品に心が慰められているからで、そういうものを発信すべきと考えている。

美術をどういうふうにするべきかということは本当に難しいが、いわゆる格好付けの美術ではなく、何か手のぬくもりがあったりだとか、原点に戻ってちょっとした気づきができるような展覧会ができればいいと思っている。とはいえ絵をポッと見せられてすぐに理解するのは難しいだろうから、ある程度の説明の言葉や気づきの言葉を添えて、一方的でなく語りかける気持ちを大事にしていきたい。

●近代美術館ホームページの基本理念について教えていただきたい。優れた芸術家は自分の世界、ポリシー、哲学を持っているものだが、そういう方々の作品を展示する側として、しっかりとした考え方を持つべきだと考えている。理念とは何かをする上での基本的な考え方で、例えば、企画を選ぶ際に非常に効いてくるものだと思うので、改めて検討していただきたい。

→確固とした理念というものを館内で検討して、再度ホームページに掲載する。

いただきました貴重なご意見を、これからの当館の運営に反映させていきたい。